



「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ、わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。(エレミヤ 31:3~4)」



エターナル・ラブ・イスラエルは、日本国内でユダヤ人に福音を伝える働きです。

- 事務局：〒226-0027 横浜市緑区長津田 7-17-16-503 TEL:090-8729-0856
- ホームページ：<http://eli.holy.jp> ●メール：eternalloveisrael@gmail.com
- 銀行口座：三菱東京UFJ銀行 武蔵新城駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル

代表：宮本 純子

☆イスラエルと教会：ONE NEW MAN：JPF カンファレンスに参加して☆

宮本 純子



去る2月5日から8日まで浜松市のホテルにて JPF(日本ペンテコステ親交会)カンファレンス 2019 が開催されました。

☆JPF カンファレンスのモットーは、「聖霊の励ましによって、教会形成と福音宣教に仕える牧師やリーダーを応援するフェロウシップ」です。日本全国から牧師と教会リーダーが600名以上も参加される聖会で、エターナル・ラブ・イスラエルは、広告チラシを参加者全員に配布して頂きました。心から感謝致します。

☆テーマは「イスラエルと教会：ONE NEW MAN」(エペソ2:15~16)という今までにない特別なテーマでした。
☆ゲストスピーカーのアシェル・イントレーター師、ウェイン・ウィルクス師、イスラエル・ポクター師、ニック・レスマイスター師、サフィーア・シュナーファー師からのメッセージや証しに大きな励ましと恵みと祝福で満たされました。



☆日本の教会と JPF の歴史的転換点と言われる今回の JPF カンファレンス 2019 では、5つの目的が掲げられました。

- 日本の教会が、イスラエルに対して健全な聖書的理解を持つように。
- 日本の教会が、イスラエルに対して特別な愛と尊敬を持つように。
- 日本の教会が、イスラエルに福音が届けられる情熱を持つように。
- 日本の教会が、イスラエルのメシアニックの会衆と親しい関係を持つように。
- 日本の教会が、終末におけるイスラエルの収穫とリバイバルに関わるように。

日本の教会が、イスラエルに健全な聖書理解と特別な愛と尊敬を持って、福音を届けることが出来ますように。終末の今、イスラエルは新しいステップに入っています！まさにリバイバルの時です！神の時です。神様が時を動かしておられます！時が満ちているのです！エルサレムから地の果てまで世界中に福音が宣べ伝えられ、その福音がエルサレムに戻ってきているのです！イスラエルでは、メシアニック・ジューが熱心に伝道しています！伝道集会にはたくさんの人を招き、福音が語られています！祈りがリバイバルを起こします！祈りには力があります！

神様が特別に選び、愛されているイスラエルの民ユダヤ人が救われますように、イスラエルのリバイバルのために祈りましょう！福音は、日本からもエルサレムに戻るのです！日本でも福音をユダヤ人に伝えていきましょう！

「兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えるようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは、異邦人の満ちる時が来るまでであり、

こうして、イスラエルはみな救われるのです。」ローマ 11 章 25~26 節



ユダヤ人たちは毎年、エステル記のプリムの祭りをアダル月の14日にお祝いします。今年のプリムの祭りは3月21日です。プリムは、子供も大人も仮装をする楽しいお祭りです。エステルがユダヤ人であることを隠していたことにちなんでいます。ユダヤ教の会堂シナゴグでは「メギラー」といってエステル記が朗読されます。その時に「エステル」と「モルデカイ」の名前が呼ばれると歓声をあげ、逆に宿敵である「ハマン」の名前が出てくる度にガラガラと音の鳴るオモチャを鳴らし、足を踏み鳴らして音を出します。また、プリムでは「オズネイ・ハマン(ハマンの耳)」という三角形のお菓子を食べます。これはハマンが三角形の帽子をかぶっていたことにちなんでいます。そして、町中の貧しい人々に贈り物をします。

●偶然を通して●

さてエステル記には神様は全く出てきません。しかし、この物語の中に神様はおられます。神様の存在は、一連の「偶然の一致」を通してはっきりとわかるのです。偶然とみえる出来事は、すべて神様の働きです。

ユダヤ人を絶滅させるために、ハマンはある日を選びました。「プル」つまり「くじ」を引いて決めたのです。プルの複数形が「プリム」なので、それが祭りの名前となりました。ハマンは、ユダヤ人を滅ぼすのに、くじを投げて日を選びました。ところが、その日がユダヤ人の祭りの日となったのです。悲しみが喜びに変わったのです。

「くじは、ひざに投げられるが、そのすべての決定は、主から来る。」箴言16:33

神様は、全てを管理しておられます。幸運か偶然の一致のように思える事柄も、単なる幸運とか、災難によって物事が決まることはないのです。全ての物事は、神様の意志や計画、目的によって起こるのです。

●モルデカイの悔い改め●

ユダヤ人を皆殺しにする勅令が発せられたことを知った時、モルデカイはすぐに荒布をまといて灰をかぶり、悔い改めました。ユダヤ人が悔い改めや悲しみの時に灰をかぶるのは、アダムつまり私たちは地のちりから造られたので、ちりに帰るためです。モルデカイは、すぐに悔い改めて他のユダヤ人たちにも悔い改めるように求めました。

当時のイスラエルは北王国と南王国に分かれていました。南王国のユダヤ人が神に背いて、他の神を礼拝したので、その結果、バビロン捕囚でバビロンに送られました。モルデカイがベニヤミン族のキシユの家で南王国のイスラエルの民がその地から追い出されることは、罪に対する神からの処罰です。ユダヤ人たちが神様の律法を守れなかった時や、その契約を破った時は、約束の地から追い出されると聖書に書かれています。

モルデカイとエステルは、ハマンから出させた勅令が、ユダヤ人の内部の問題の結果だと知っていたのです。これと同じように、私たちが罪を犯す時、私たちは悔い改めなければなりません。主であり救い主であるイエス様に罪を告白し、神様との交わりに立ち返るためです。罪の告白は、神様との交わりを元に戻してくれるのです。

●王妃エステル●

エステルは、実に数奇な運命によって、イスラエルの民が危険にさらされたちょうどその時、王にとりなしを頼むことができる地位の場に居合わせました。彼女が邪悪な陰謀を止められる場に居合わせたのは、ただの偶然ではありません。王妃ワシュティが宦官から伝えられたアハシュエロス王の命令を拒んで来ようとしなかったのも、王は非常に怒りました。王のお心にかなうおとめをワシュティの代わりに王妃とすることになったことも、モルデカイがおじの娘のエステルを引き取って自分の娘にしたことも、偶然ではないのです。エステルは、シュシャンの城に集められて、アハシュエロス王の好意と恵みを受け、ワシュティの代わりに王妃となったのです。

「あなたはすべてのユダヤ人から離れて王宮にいるから助かるだろうと考えてはならない。もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」エステル記4:13~14

エステルは、快適な地位を捨てて、命を危険にさらしてまで、ユダヤ民族のためにとりなしました。エステルは勇気を持って、この困難な状況を受け入れました。ペルシャが地上において最強の帝国であったまさにその時、無名の少女がその王妃の座を得るなど、偶然の出来事ではありません。エステルが、自分がユダヤ人であることを隠していたことも、神様は用いられました。そして、ユダヤ人であることを明らかにした時に、ユダヤ民族全体の救いをもたらし、破滅から救ったのです。全知全能の神は、その偉大な目的を成し遂げるために、これらの境遇を定められるのかもしれませんが。



●過越の祭とプリムの深い関係●

十字架、復活とプリムの祭には、深い関係があります。エステルが断食したのは3日間です。イエス様が十字架にかけられてよみにくだり、3日目によみがえってくださったことのひな型です。エステルの断食は、エステル記3:12「第一の月の十三日に」この日の夕方から始まりました。現在でも、ユダヤ人たちは「エステルの断食の日」には3日間断食して祈ります。第一の月、ユダヤ暦ではニサンの月です。つまりニサンの月の14日といえば、過越しの祭りの最初の日です。

レビ記23:5「第一月の十四日には、夕暮れに過越のいけにえを主にささげる。」

過越しの祭りは、神様がユダヤ人をエジプトから救われた日です。その同じ日に神様は、エステルの断食の祈りを聞き、ハマンの悪巧みから神の民イスラエル民族を救われたのです。そして、イエス様が十字架にかけられたのは、過越しの祭りの日です。イエス様の十字架を通して全世界を救われたのです。

●モルデカイの正しい行ない●

エステルが王様の前に出ていくと、王様は金のしゃくを伸ばして、エステルは命を救われました。ユダヤ人が救われるために、さらに大きな意味を持っていたのは、王様が眠れなかったために読んだ年代記です。

王は、ハマンのモルデカイを殺そうと計画し柱を立てたまさにその前夜にモルデカイの勇気ある記録を読みました。この夜、王はモルデカイを英雄のように、主都シュシヤンの町の広場に導き、栄誉を与えることになったのです。最初は、モルデカイの良い行ないが報われないように見えていましたが、実は彼の行動はユダヤ民族を救う神のご計画の一部だったのです。モルデカイのように、私たちは全ての境遇の中で正しいことを選択しなければなりません。隣人の危険に対して無関心ではいけないのです。ヒトラーがナチス・ドイツを率いてホロコースト、ユダヤ人大虐殺という、まさに恐ろしい犯罪行為を可能にしたのもこの無関心からでした。「すべての境遇の中で、正しいことを選択する。」これがエステル記の私たちに教えている大切なメッセージなのです。

●困難な状況に直面した時●

人生の試練や苦難の中にも神様はご臨在されています。たとえ私たちが神様の御手の働きを見ることが出来なかったとしても、すべては神様の摂理とご支配の中にあるのです。私たちは、主が天国と地上でのすべての権限をもたれていることを知っています。私たちの人生においても神様の御心が成されているのです。

神様は、エステルを用いてイスラエル民族に救いをもたらし、不眠症という事例を用いてユダヤ人モルデカイを救い、ハマンを打ち砕かれました。このことから偶然の一致ではなく、神様のご計画をみることができるのです。たとえ私たちが困難に直面したとしても、神様に信頼し従う勇気があれば、どんな境遇であろうとも、全てのことを働かせて益としてくださる神様の良きご計画と目的が明らかになり、目に見えない神様の働きもイエス様を通して明らかになるのです。

メギラー、エステル記の主人公は、エステルでも、モルデカイでもなく、目には見えないけれど生きて働いておられる神様です。神様は、不可能と思える状況の中でユダヤ民族を救うために、エステルやモルデカイを用いて、その背後で働かれていたのです。時代や歴史を振り返るといつの時代も、ハマンのような人物、凶悪で残酷非情な人物が現われて、ユダヤ民族の滅亡を抱いているのです。これからの時代、反キリストが現れると聖書には預言されています。しかし、王の王、主の主である神様は、いまも生きて働かれ、ユダヤ民族を滅ぼしたり、ご計画が妨げられることをお許しにはならないでしょう。私たちが、いまの時代に生かされているのは、決して偶然ではありません。

エステルやモルデカイのように、神様により頼み、従うものとして歩いていきましょう。

☆祈りのリクエスト☆



「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』」(詩篇 122:6~7)

- 4月のイスラエルの総選挙のためにお祈りください。
- 平和の町であるエルサレムとイスラエルの平和のために。神様の計画と御心だけがなりますように。

- トランプ大統領やネタニヤフ首相、世界中の政治的指導者たちが救われて、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、神様の御心に従って政治を進めることが出来ますように。
- イスラエルと日本の政治・文化、あらゆる面で交流が祝福されますように。
- イスラエル国内であらゆるテロが起こらないように、あらゆる攻撃からイスラエルが守られるように。
- イスラエルの周辺諸国との関係のために。シリア、ヨルダン、エジプト、イラン、イラク、トルコ、レバノンなどの各国との関係を神様が最善に導いてくださいますように。
- パレスチナ問題のために。神様が最善に導いてくださいますように。
- ヨーロッパから反ユダヤ主義がなくなりますように。フランスとイギリスでは反ユダヤ主義の動きが強まっています。国連とEUが公正公平な機関になりますように。
- 世界中に住むすべてのユダヤ人がイエス様を信じて救われますように。ユダヤ人に福音が伝えられますように。
- イエス様を信じているメシアニック・ジューの一人一人を主が豊かに用いてくださり、さらに救われるユダヤ人が起こされますように。メシアニック・ジューの信仰をさらに強めてください。
- イスラエルのリバイバルのために。イスラエル国内の伝道のために。
- 日本で多くのユダヤ人がイエス・キリストと出会い、救われますように。トラクトを用いてくださるよう。在日ユダヤ人が救われますように。そして、日本を訪問し、滞在するユダヤ人がこの日本で救われますように。私たちが神さまの愛を伝え、神様の愛でおもてなしをし、伝道することが出来ますように。
- 日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために神様の御心に従って祈っていくことが出来ますように。
- ユダヤ人伝道の重荷を持つ後継者たちが起こされますように。

☆2019年春のユダヤの祭り☆



- 3月21日 プリム(ハグ・ハ・プリム)
エステル記の祭り。王妃エステルがハマンによるユダヤ人絶滅計画からユダヤ人を救ったことを記念する祭り。仮装をして賑わいます。
- 4月20日~27日 過越しの祭り(ハグ・ハ・ペサツハ)
出エジプト記の祭り。イスラエルの民がモーセに率いられて出エジプトをしたことを記念。お祭りの期間中、イースト菌の入ったパンは禁止され、種なしパンを食べる。
- 5月9日 独立記念日(ヨム・ハ・アツマウート)
1948年のイスラエル建国を祝い、独立の苦労と喜びを分かち合う。
- 5月23日 ラグ・ヴァ・オメル
バルコフがローマ兵に勝利をおさめた日。子どもたちがたいまつを焚いて祝う。

2019年3月発行